

令和3年1月（第1回）教育委員会会議議事録

1. 開催の日時及び場所

令和3年1月19日（火）18:00～19:15

宇部市港町庁舎 3階会議室

2. 出席委員の氏名

野口 政吾 教育長

田村賢二郎 委員

山野あい子 委員

川崎 裕美 委員

3. その他議場に出席した者

上村教育部長、床本参事、小林総務課長、藤井施設課長、沖永施設課主幹、
河村総務課係長

4. 傍聴者 なし

5. 趣 旨

教 育 長： ただ今から、令和3年1月19日の第1回教育委員会会議を開催いたします。
本日は、重村委員欠席の連絡がありましたが、3人の委員の出席があります
ので、会議として成立していることを最初に報告します。

また本日は傍聴の申し出はありませんでした。

教 育 長： 続いて、今回の資料と合わせて送付しました、12月22日の第18回の
議事録について、御意見等ありましたでしょうか。

（全委員異議なし）

教 育 長： それでは、第18回の教育委員会会議の議事録について、承認とさせてい
ただきます。

教 育 長： 次に、本日の会議録署名委員の指名についてですが、本日の会議録署名人は
山野委員をお願いします。

教 育 長： 本日の議題は、その他の事項として「宇部市学校施設長寿命化計画（素案）」
と「寄附の報告について」の2件となっております。

教 育 長： 始めに、「宇部市学校施設長寿命化計画（素案）」について、事務局から説明
をお願いします。

事 務 局： 「宇部市学校施設長寿命化計画（素案）」について説明します。現在、最終
チェックをしているところですが、この計画を策定した理由としては、宇部市
の学校施設は築30年以上経過したものが過半数を占めており、老朽化が進ん
でいます。そのため、今後10年20年の間に一斉に更新時期を迎えることにな
り、改修や維持管理費などに多額の費用を要することが想定されます。また、
社会情勢の変化に伴い、教育内容や方法の多様化、防災機能の向上など、学校施
設に対するニーズが変わってきています。こうした状況を踏まえ、中長期的な
維持管理費の縮減や平準化、学校施設に求められる機能性を確保するため、宇
部市学校施設長寿命計画を策定するものです。この計画の位置づけについてで
すが、上位計画として、宇部市公共施設等総合管理計画があります。学校施設長
寿命化計画はこの中の個別計画の一つになります。この計画の対象となる学校

施設は451棟、21.1万平米となっています。築40年以上は、棟数で、49.2%、面積は43%を占めています。これまでは、学校施設は築60年をめぐり、建て替えを実施してきましたが、現状の施設を耐用年数60年で建て替えるとすると、今後40年間で、建替工事と、防水や外壁等の改修工事を合わせて実施した場合の費用の総額は925億円となり、1年間の平均にすると、23億円となります。過去5年間に実施した耐震化事業等に要した費用は14.8億円であり、これまで以上の経費が必要となります。上位計画である宇部市公共施設等総合管理計画では、おおよそ建物の維持管理費、更新費用は市全体で28.3億円と試算しているところであり、学校施設だけで23億円を確保し、以前のように整備を進めることは困難な状況です。宇部市公共施設等総合管理計画では、量を減らす、大切に使う、賢く生かす、将来に備えるという4原則が示され、長寿命化に向けた取組として鉄筋コンクリート造や鉄骨造については、築45年以下のものは、耐用年数を50年から75年に引き延ばすことも示されています。従来の方法では、建物を建築して、60年後には改築をすることになります。その間に不具合が生じた場合は個別に改修を行っていましたが、長寿命化では、計画性を持って、建物の維持管理を行うということで、20年目、40年目、60年目に、必要となる整備を行うものです。この中で、40年目に行う大規模改修では、新築費用のおよそ60%を見込んだかなり大掛かりな改修を行います。文部科学省も、このような方針で施設を長寿命化することによって、経費の削減を図りたいと考えているところです。本計画の策定の中で、建て替えをするということだけではなく、通常の維持管理も当然必要となりますので、すべての建物を調査しています。その結果、いくつかの学校で早い時期に、改修が必要な箇所があることを確認しました。それらも建て替えや長寿命化と並行して、個別に改修する必要があります。整理しますと、長寿命化できる施設は長寿命化する、既に耐用年数が迫り長寿命化しても、その期間が少なく効果的でないものは建て替える、緊急に改修が必要な箇所があるものは個別に対応するという三つの柱で、これからはマネジメントしていこうと考えています。なお、計画策定に関わるアンケートを10月に実施したところですが、その中でも要望が強く、教育委員会でも重要な位置付けをしているトイレの洋式化や特別教室のエアコン整備は、早期に実施する必要があるものに含めています。この方針で試算した結果、今後40年間に必要な経費は726億円に削減できています。1年間当たりの平均では18.2億円ということになっていますが、それでもこれまでの年間平均と比較して多額の経費がかかることとなります。宇部市公共施設等総合管理計画の中で、学校施設分の想定費用は1年当たり11.7億円であり、令和3年度から12年度までは、ほぼ11.7億円の範囲内で実施できますが、令和13年度以降は、徐々に費用が増大していき、令和33年度から44年度は、割り当ての倍以上の費用が必要となるため、大きな課題となっています。今後5年間の予定についてですが、令和3年度から7年度までに体育館の改築を進めていき、耐震化率を100%にしたいと考えています。長寿命化については個別改修として、外壁や防水、設備の改修及び、トイレや空調設備の整備費を計上しています。学校施設のトイレは、現在、

洋式化率が32.8%となっています。また、多目的トイレが設置されていない学校があることも課題となっています。小中学校の児童生徒数について、昭和60年には、24,200人の児童生徒がいましたが、平成27年では、12,459人と、51.4%も減少しています。トイレの便器数は、建て替えなどにより変動しているため、昭和60年の正確な個数はわかりませんが、更新していない建物が多くを占めている現状では、児童生徒数に対して、過剰な便器を有している可能性もあるため、今後は、児童生徒数に応じた便器数を基準に、洋式化100%を目指していこうと考えています。次に、空調設備についてですが、空調設備工事に関しては、現在、給食調理室で実施しているところですが、その後、特別教室への設置を行う予定にしています。近年、児童生徒数は減少傾向にあり、将来的にも減少することが予測される中で、学校施設の保有のあり方、維持更新コストの削減及び財源の確保は大きな課題となっています。こうした状況において、個々の学校施設の長寿命化だけでなく、学校施設の配置や規模、運営、活用等、総合的に検討する必要があると考えています。この計画は5年ごとに見直すこととしていますが、必要に応じてPDCAを行い、学校施設の整備に取り組んでいこうと考えています。

教 育 長： ただ今の説明に対して、御意見御質問はありますか。

委 員： 神原小学校はかなり古いと思うのですが、耐震補強工事を行っています。こうした古い学校も耐震補強を行うのですか。

事 務 局： 児童生徒の安全を考慮すると、実施せざるを得ません

委 員： 耐震補強工事を行った場合も、その後は壊して建て替えることになるのですか。

事 務 局： 既に老朽化が進んでいる学校に関しては、建て替えの方向になると思います。比較的新しくないと、長寿命化してもコスト的に有効ではありません。

委 員： この耐震補強をしても、短期間で壊して建て替えるのであれば、その時に建て替えた方がよかったのではないかと思います。

事 務 局： 委員のご指摘はもっともだと思いますが、建て替えには多額の経費を要するため、その一校を建て替えることで、多くの学校の耐震化が遅れることとなります。すべての学校施設を耐震化することを最優先したため、耐用年数が比較的短い建物についても耐震化工事を実施したところです。

委 員： 止むを得ない状況だったということですね。

委 員： 児童生徒の安全を守らなくてはならないので、耐震化を優先していくことは、止むを得ないと思いますが、後から考えれば、そこはしてなくてもよかったというケースが発生することも、現状では仕方がないのでしょうか。

事 務 局： 阪神淡路大震災や、東日本大震災を考えると、いつどういう形で災害が起こるかわからなという背景の中で、安心安全を第1に考えると、耐震化率100%を早く達成させることを最優先してきたところです。

委 員： 今後の維持・更新コストというのは、今の学校がすべて存続した状態を想定しているのですか。

事 務 局： 今あるすべての学校を建て替えたり、維持していくと、40年でこれだけ維持、更新コストがかかるという試算です。

委員： 児童生徒数の推移については、この35年間で半分以下になっている状況を考えると、やはり今後児童生徒数の減少を踏まえて、小中学校の適正配置と切り離しては考えられないと思います。

委員： どの学校にもまだ洋式になってないトイレがたくさんあると思いますが、改修は古い順に実施していくのでしょうか

事務局： トイレの洋式化については、予算が確定していない状況ですが、必要な便器の数をコンサルタントに算定してもらい、その必要な便器数に対して、宇部市全体で約300個の洋式便器が不足しているということで、300個の洋式化を3年で行いたいと考えています。

委員： 学校の人数に応じて洋式化を進めて、他の和式の便器はそのままおいておくということですか。

事務局： まずは必要な数だけの洋式化を行おうと考えています。

委員： LGBTQ対応のトイレは、校舎を改築するという段階でないと対応はできないのですか。

事務局： トイレの問題点としては、洋式化が遅れているということと、多目的トイレがない学校があることがあげられます。今は学校施設が避難所に指定されていることや、地域の活動の場となっていることから多目的トイレは必要であると考えています。まず3年で必要な洋式化を終えた後に、多目的トイレがないところに多目的トイレを設置していきたいと考えています。設置方法については、学校の状況に応じて改造や増築を検討したいと考えています。

教育長： 学校施設の長寿命化については、老朽化や財政負担、利便性や児童生徒数の推移を見据えた適正配置等、総合的に検討していく必要があります。これは宇部市全体の課題であると思いますので、市長や市民の皆様のご意見をいただきながら進めていきたいと思ひます。

教育長： それでは、次に、「寄付の報告について」事務局からお願いします。

事務局： 12月分の寄付の報告をします。

12月7日にあいおいニッセイ同和損害保険(株)MS&ADゆにぞんスマイルクラブ様から特別支援教育青い鳥基金として10万円のご寄附をいただきました。12月8日、匿名の方から、小中学校教育資金として、平成24年度から通算104回目3,000円のご寄附をいただきました。12月15日に公益財団法人渡辺翁記念文化協会様から、宇部市の文化向上のため及び、図書館図書資料充実のためとして、80万円のご寄附をいただきました。12月18日、宇部興産労働組合化学第2支部様から、小中学校教育資金として13,159円のご寄附をいただきました。12月25日、株式会社結心工房様から、小中学校教育資金として、522,413円のご寄附をいただきました。

教育長： 他になにかありますか。

(全委員意見無し)

教育長： 以上をもちまして、本日の会議を閉会とします。